



愛知県における保育中の事故に関する実態調査
報告書

平成25年10月

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
保育部会 実態調査ワーキングチーム



はじめに

第57回の全国大会開催が決まり、実行委員会の準備が始まった頃、ある実行委員から、「せっかく全国大会を開催するのだから、何か成果物を残したい」という意見が出されました。大会準備というと、事務的、物理的な作業に追われてしまいがちですが、それだけに留まるのではなく全国から多数の保育関係者にご参加いただく本大会に、保育者として主体的に皆様をお迎えしたいという熱い思いがそこにはありました。

ワーキングチームが結成され、アンケート項目の設定、集約など悪戦苦闘の日々が続きました。

本日お届けしたこの報告書には、まだまだ未熟な部分が多々残されていますが、大会参加者の皆様に関係者の熱い思いをお汲み取り頂ければ幸いです。そして、本報告書のテーマである保育現場での安全管理が、子どもたちの幸せな生活につながることを、心から祈念します。

平成25年10月

社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会

保育部会 部会長 伊 東 世 光

目次

はじめに	1
目次	2
愛知県における保育中の事故に関する実態調査の概要	3
愛知県における保育中の事故に関する実態調査 集計結果	9
実態調査から見えてくる保育所の安全管理の諸課題	4 9
資料	5 5
・ 愛知県における保育中の事故に関する実態調査 実施要綱	
・ 愛知県における保育中の事故に関する実態調査 調査票	
・ 独立行政法人日本スポーツ振興センター 「学校事故事例検索データベース」より	
・ 厚生労働省「保育施設における事故報告集計」より	
編集後記	6 2

**愛知県における保育中の事故に関する実態調査
概 要**

愛知県における保育中の事故に関する実態調査の概要

平成 25 年 4 月現在の愛知県内保育所 1,226 施設(公立 774 施設、私立 452 施設)にアンケート調査を依頼し、1,109 施設より回答があった。(回収率 90.5%)

施設の概要について

設置主体

■71%が公立園で25%が私立園

設置主体は、市町村立の公立園が 71%(781 施設)で社会福祉法人立の私立園が 25%(276 施設)、宗教法人立等その他が 4%(52 施設)であった。

開設年

■第1次ベビーブームと第2次ベビーブームに合わせて保育所数が増加

第1次ベビーブーム(昭和 22 年～24 年)に合わせるように昭和 20～29 年に保育所が 22%(246 施設)設立され、その後の第2次ベビーブーム(昭和 46～49 年)には、昭和 40～49 年で 22%(252 施設)、昭和 50～59 年で 20%(223 施設)の保育所が設立された。その後の昭和 60 年以降は、大都市圏を中心にして待機児が出始めているのにもかかわらず、設置数が激減し、昭和 60～平成 9 年の 13 年間でもわずか 3%(27 施設)である。特に名古屋市においては、平成元年の待機児童数が 352 人、それ以降も増え続けて平成 9 年には、587 人もの待機児がいたのにもかかわらず、昭和 60 年～平成 19 年の 23 年間でわずか 14 施設(名古屋市発表数、内アンケート回答園でも 12 施設)だけの開設である。その後は、待機児問題が大きく報じられたこともあり、開設数は増加傾向にあるが、現状を考えると対策が後手に回っていたと思われる。(名古屋市の待機児は、24 年 4 月時点で 1032 人の 2 年連続全国ワーストワンであったが、25 年 4 月時点では、752 人減の 280 人である)

現員数

■3歳以上児の割合が高い公立園と3歳未満児の割合が高い私立園

園児数の割合は、公立園の0歳児 2%・1歳児 9%・2歳児 12%に対して、私立園は、0歳児 5%・1歳児 13%・2歳児 16%である。これは、かねてより3歳未満児(特に0歳児)を積極的に受け入れてきた私立園が多かったためと考えられる。

市町村配置基準

■1歳児は、53%の園が国基準(6:1)より高い基準で保育を実施している

1歳児で53%、2歳児で14%、3歳児で13%、4歳児で8%、5歳児で1.5%の園が国基準よりも高い職員配置基準で保育を実施している。しかし、全体で見れば国基準で保育を実施している園の方が多く、市町村の財政事情や子育て支援への理解度の差が大きいと考えられる。実施が予定されている「子ども・子育て支援新制度」でも、特に3歳児の職員配置基準が問題となっているように、各国に比べて低い基準が「はたして子どもにとってよい環境なのか？」を社会全体で考える時期にきていると思われる。

市町村面積基準

■0歳児の73%が国基準で保育を実施

0歳児の73%、1歳児の84%が国基準で保育を実施している一方、4~5%の園が今だ1.65㎡である。平成23年10月7日に児童福祉施設最低基準の地方条例化に関する厚生労働省令が公布され(施行は24年4月1日)、この中で、「乳児室又はほふく室」の面積の最低基準について、「ほふくする0、1歳児については3.3㎡/人が必要」との解釈が示された。しかし、市町村によっては、経過措置として1.65㎡での保育も認めているところもある。また、僅かではあるが、0~5歳児において国基準よりも高い基準で保育を実施している市町村もある。

受入年齢

■公立園の9%、私立園の36%が生後8週以上から受入

公立園の9%、私立園の36%が生後8週以上から受入する一方、満1歳以上の受入のところも9%ある。政令指定都市である名古屋市は、33%の園が生後8週以上での受入をしている。これは、各市町村の子育て環境の違いが大きいと考えられる。また、私立園の方がかねてより0歳児を積極的に受け入れてきた歴史もある。

職員の状況について

■正規保育士の割合は、公立で41%、私立で59%。

公立保育所運営費の一般財源化以降、特に公立園での非正規化が進んでおり、公立園の正規保育士の割合は41%、私立で59%となっている。一方、乳児を始めアレルギー児やアナフィラキシーの危険性がある園児も増えている中、看護師配置園は、全体でも235園である。

愛知県における保育中の事故に関する実態調査の概要

日々の保育の中での危機管理について

(1) 子どもが持つリスクに対して

■子どもが持つリスクへの意識が高い。

「子どもの心身の特性や既往歴を保育者が把握していますか」、「遊具、園庭、プールでの遊び方について子どもに継続的指導を行なっていますか」、「危険につながる行動については園全体で注意を喚起していますか」の3つの設問では「はい」の回答が97%となっている。「危険を回避するための安全に関する指導を行っていますか」についても96%と高く、子どもの持つリスクに対しての対応が事故防止のうえで重要であると考えていることがわかる。

■約三割の保育所にアナフィラキシーの危険性がある子どもが在籍している。

「アナフィラキシーの危険性がある子どもが在籍していますか」の設問では、「はい」の回答が35%と約三分の一の保育所が重度のアレルギーを抱える子どもが在籍し、個々の子どもに対応していることが伺える。

(2) 保育所や保育者の持つリスクに対して

■現在の保育士配置基準・面積基準について、安全に保育をしていくために三割の保育所が問題であると考えている。

「現在の保育士配置基準で安全な保育ができると思いますか」の「いいえ」の回答は34%、「現在の面積基準で安全な保育ができると思いますか」の回答では「いいえ」と「わからない」で31%の回答があり、約三分の一の保育所が不安を抱えて保育をしている現状がみられる。

■事故後の事故分析等の話し合いや職員間の情報共有が事故防止に不可欠である。

「日常のヒヤリ・ハットの経験を生かす仕組みがありますか」の回答では「はい」の回答が87%と高く、ヒヤリ・ハットの事故分析を生かして職員間で周知できるような仕組みを考えていることがわかる。「職員間の話し合いによる課題や手順の共有が事故防止や危機管理に生かされた実感はありますか」では、「はい」の回答が91%となっており、事故防止や手順についての職員間の話し合いや連携等、日頃の備えの大切さを実感していることがわかる。

■職員の事故防止・救命救急の研修の必要性を認識している。

「リスクマネジメントや安全に関する内部研修をしていますか」の設問では71%が実施していると回答し、「事故防止や救命救急・応急手当の研修に職員を積極的に参加させているか」の設問では92%、「BLSの訓練を定期的に行っていますか」の設問では73%が「はい」と回答しており、保育士の意識を高めたり、救急のノウハウを身につけたりすることを重要なこととして捉えていることがわかる。内部研修・

定期的な訓練については「はい」との回答が70%台となっており、大切なこととは捉えているが毎日の保育体制を整えることが精一杯の現状もあり、研修に職員を参加させることのむつかしさも伺える。

- 「アナフィラキシーの危険性がある子どもが在籍していること」の設問と「職員のエピペン使用の知識、使用方法の共通理解がされている」の設問での「はい」の回答の割合につながりがみられる。

(1)の子どもの持つリスク 「アナフィラキシーの危険性のある子どもが在籍していますか」の設問で「はい」と回答があったのは35%、「エピペンについての知識や使用方法について職員が共通理解していますか」の設問で「はい」と回答があったのは41%とほぼリンクしており、重度のアレルギーを持つ子どもが在籍している保育所では対応に差し迫った状況が伺える。

- 給食やおやつ等の飲食時についての危険性の認識は高い。

「給食やおやつ等の飲食は、状況によっては命に関わる行為であることが意識されていますか」で「はい」の回答が96%、「飲食が時として命に関わる行為であることを想定した上で、保育手順を確認していますか」で91%、「手順に基づく飲食の提供と飲食中の子どもの見守りができていますか」では95%と高く、保育所や小学校での事故が記憶に新しいこともあり、飲食時の安全について非常に関心や意識が高いことがわかる。

- 事故防止には、保育者が子どもから目を離さないことが重要と考えている。

「飲食中の子どもの見守り」で「はい」の回答は95%、「睡眠時は常に見守りができていますか」で「はい」の回答は96%、「子どもの状況把握のための保育者の位置を確認していますか」で「はい」の回答は93%で、子どもの見守りについては総じて高い割合を示し、事故を起こさないために保育者が子どもから目を離さないようにしようと考えていることが伺える。

(3) 施設の物的環境が持つリスクに対して

- 物的環境が持つリスクに対して意識は高い。

「子どもの発達に合った安全な遊具の選択と遊び方の指導をしていますか」、「園舎、園庭の特性を把握し、それらを踏まえて安全に対する配慮をしていますか」「園舎内外の施設、設備、遊具について安全点検を行っていますか」の各設問では、「はい」の回答が96%となっている。事故防止のうえでは、遊具の選択を始め、安全点検の実施など安全への配慮は非常に意識が高いことが分かる。

- AEDの普及は進んできているが、酸素吸入器の設置率は非常に低い。

「AEDを設置していますか」で「はい」の回答が77%と設置が進んできていることがわかる。一方、「酸素吸入器はありますか」で「はい」の回答が4%となっている。酸素吸入器の設置は安全対策の一つとしては浸透していないことが伺える。

(4) 事故が起きた時の対応について

■事故記録簿の作成、事故の際の保護者説明は重要であると考えている。

「事故記録簿の作成は速やかに行われていますか」の設問では「はい」が94%と高い割合を示している。また、「事故の際に保護者への連絡や怪我の状況説明は迅速に行われていますか」の設問では「はい」の回答が97%となっており、事故記録簿の作成と保護者説明は速やかに行うという認識が高いことが分かる。

(5) 保護者対応について

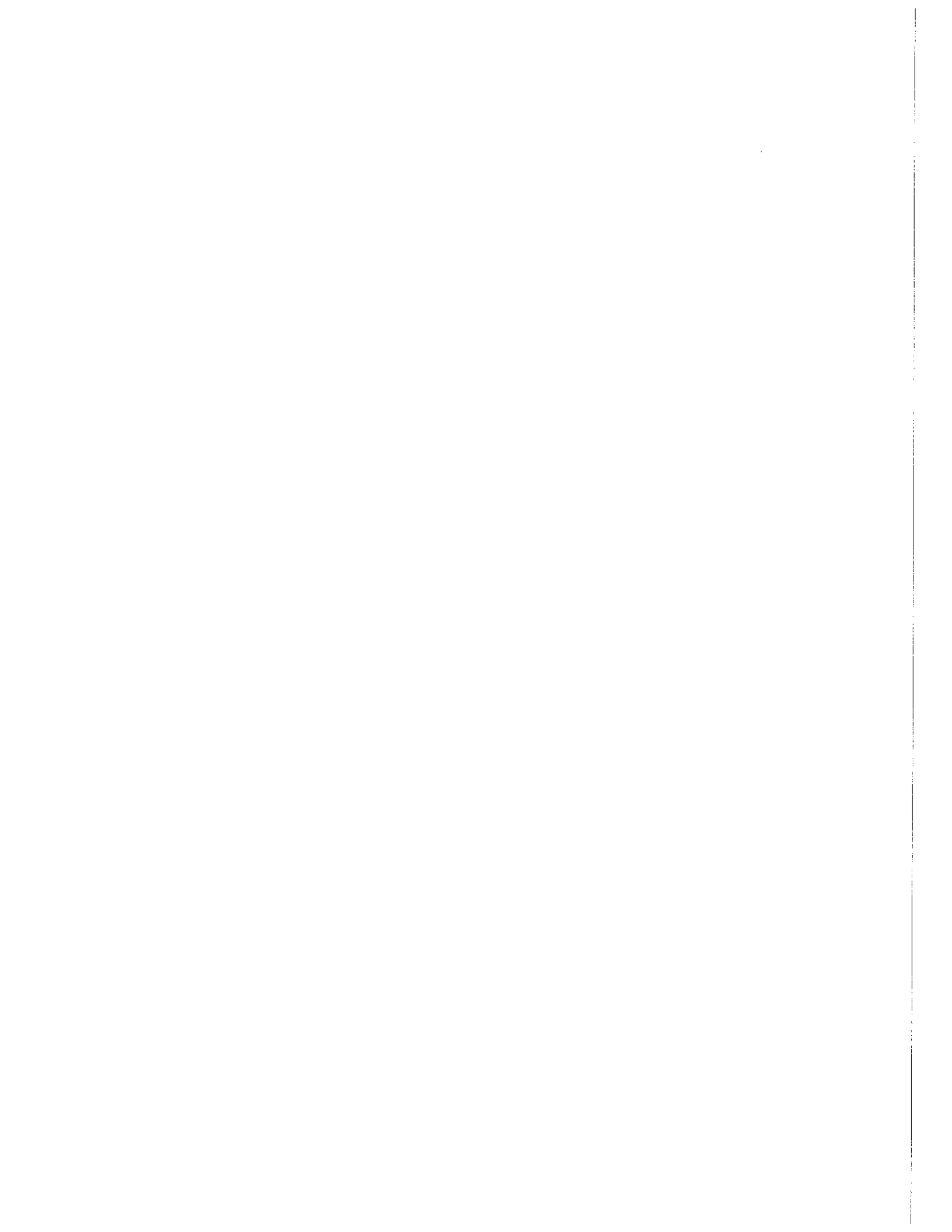
■保育中の事故や怪我について、園の方針を保護者に説明することを重要視していることが分かる。

「保育中の事故や怪我について理解を得るために園の方針を保護者に説明していますか」の設問では「はい」の回答が92%となっている。また、「子どもの望ましい発達には、安全策一辺倒でなく「他人とぶつかりあうこと」や「次の発達を促すための活動（遊具）」などの経験が必要というようなねらいが保護者と共有できていますか」の設問では「はい」の回答が84%となっている。このことから、危険な物や場所をなくすことだけではなく、子どもたちにとって必要な力が身に着くような環境設定が不可欠であり、そのような考え方を保護者と共有していくことが保護者対応において重要なこととして捉えていることが分かる。

■約2割の保育所で、保護者との間で問題が生じたことがある。

「子どもが事故や怪我をした場合に、保護者との間で問題が生じたことがありますか」の設問では、「はい」の回答が24%となっている。また、「裁判になったことがありますか」の設問では4カ園が「はい」と回答している。さらに、「子どもが事故や怪我をした場合に園として、相談できる医師や弁護士などの第三者機関を整備されていますか」という設問では、「はい」の回答が70%となっている。

保護者対応では、園の方針説明や怪我の状況説明は重要としているが、問題が生じることもあり、第三者機関の整備の必要性を感じていることが伺える。



**愛知県における保育中の事故に関する実態調査
集計結果**

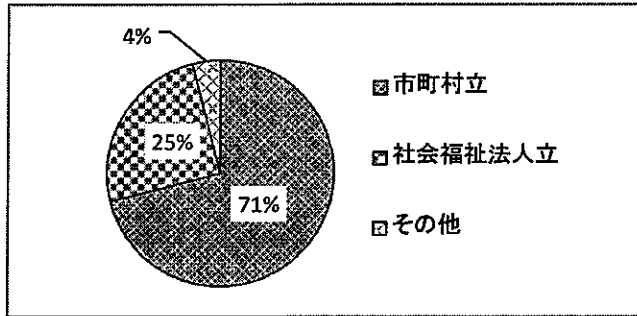
愛知県における保育中の事故に関する実態調査 集計結果

愛知県内の保育所数 1,226 施設
 本調査の回答保育所数 1,109 施設 (回収率 90.5%)

問1. 施設の概要について

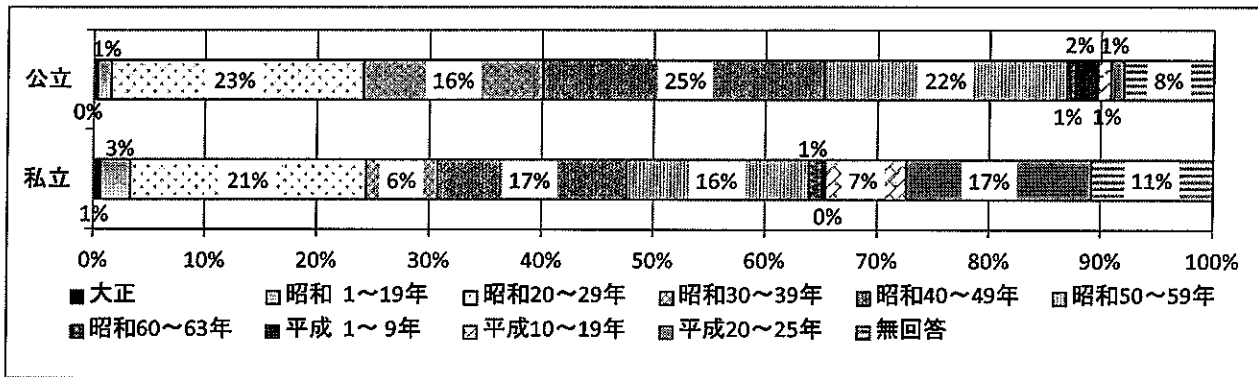
1. 設置主体

市町村立	781	71%
社会福祉法人立	276	25%
その他	52	4%
合計	1,109	100%

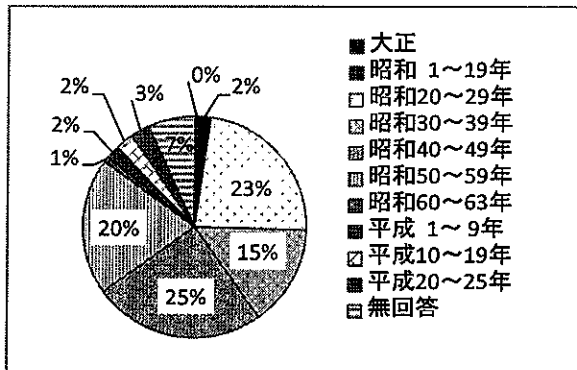


2. 開設年

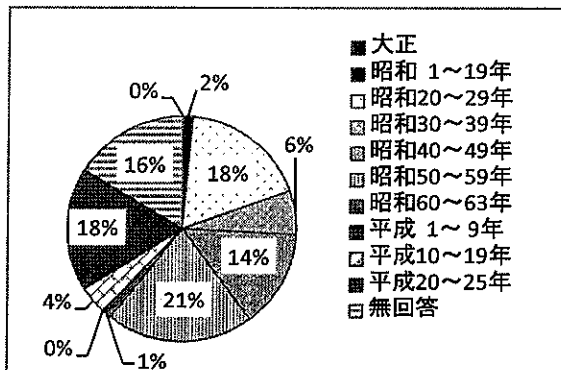
	全体		公立		私立	
大正	4	0%	2	0%	2	1%
昭和 1~19年	19	2%	10	1%	9	3%
昭和20~29年	246	22%	176	23%	70	21%
昭和30~39年	145	13%	124	16%	21	6%
昭和40~49年	252	22%	196	25%	56	17%
昭和50~59年	223	20%	169	22%	54	16%
昭和60~63年	10	1%	6	1%	4	1%
平成 1~9年	17	2%	16	2%	1	0%
平成10~19年	33	3%	9	1%	24	7%
平成20~25年	64	6%	9	1%	55	17%
無回答	96	9%	64	8%	32	11%
合計	1,109	100%	781	100%	328	100%



愛知県(名古屋市を除く)



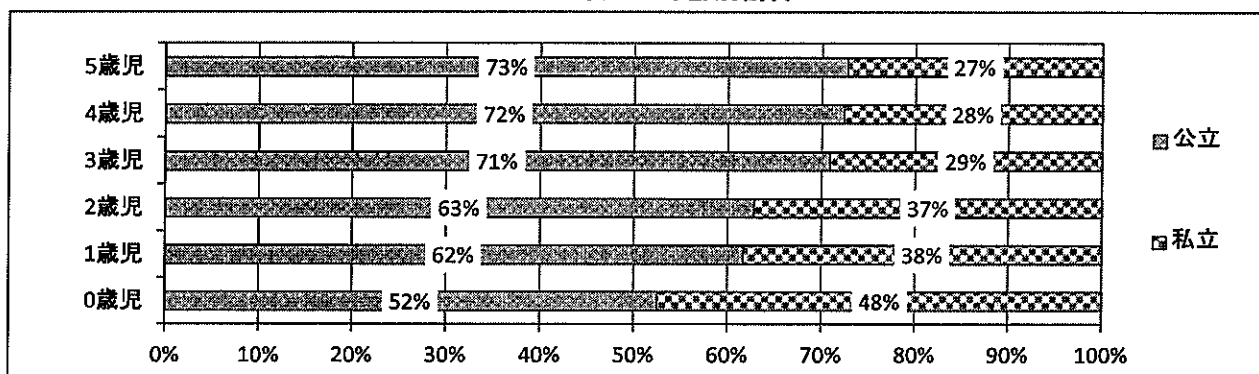
名古屋市



3. 現員数

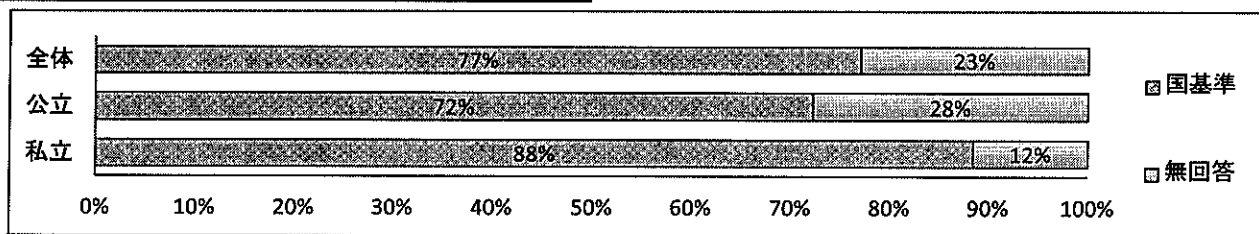
	全体		公立		私立	
0歳児	3,003	2%	1,576	2%	1,427	5%
1歳児	12,119	10%	7,463	9%	4,656	13%
2歳児	16,240	14%	10,193	12%	6,047	16%
3歳児	28,397	24%	20,107	24%	8,290	22%
4歳児	30,000	25%	21,692	26%	8,308	22%
5歳児	30,482	25%	22,151	27%	8,331	22%
合計	120,241	100%	83,182	100%	37,059	100%

公立と私立の年齢別割合

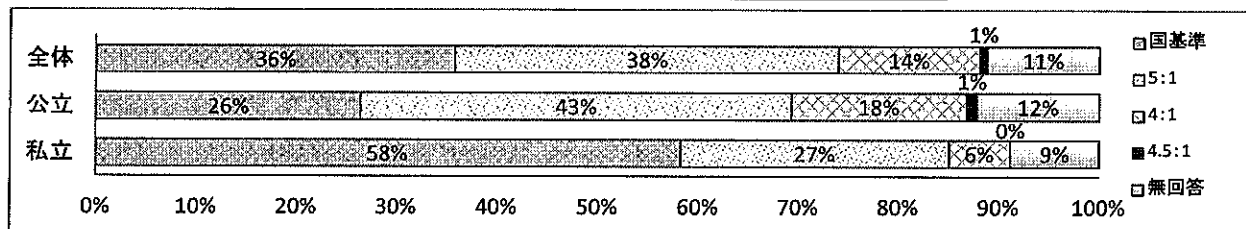


4. 市町村配置基準

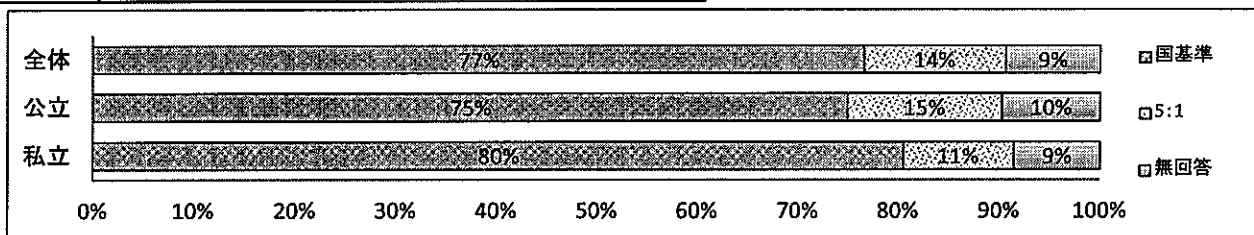
保育士配置基準		国基準	無回答	全体
0歳児	全体	854	255	1,109
		77%	23%	100%
	公立	564	217	781
		72%	28%	100%
	私立	290	38	328
		88%	12%	100%



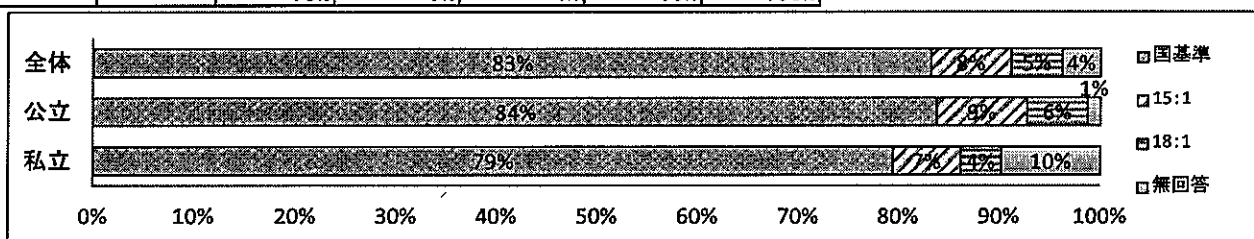
保育士配置基準		国基準	5:1	4:1	4.5:1	無回答	全体
1歳児	全体	397	423	157	8	124	1,109
		36%	38%	14%	1%	11%	100%
	公立	206	335	137	8	95	781
		26%	43%	18%	1%	12%	100%
	私立	191	88	20	0	29	328
		58%	27%	6%	0%	9%	100%



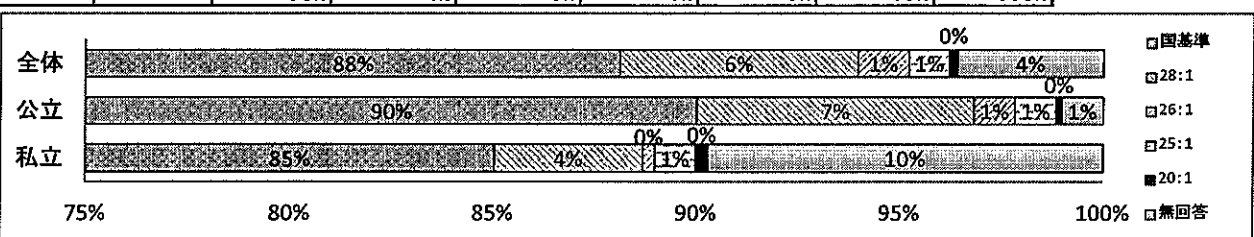
保育士配置基準		国基準	5:1	無回答	全体
2歳児	全体	849	156	104	1,109
		77%	14%	9%	100%
	公立	585	120	76	781
		75%	15%	10%	100%
	私立	264	36	28	328
		80%	11%	9%	100%



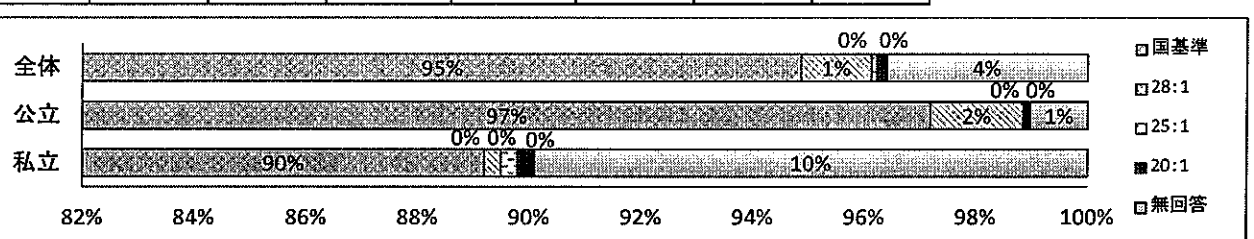
保育士配置基準		国基準	15:1	18:1	無回答	全体
3歳児	全体	917	88	62	42	1,109
		83%	8%	5%	4%	100%
	公立	658	66	47	10	781
		84%	9%	6%	1%	100%
	私立	259	22	15	32	328
		79%	7%	4%	10%	100%



保育士配置基準		国基準	28:1	26:1	25:1	20:1	無回答	全体
4歳児	全体	979	65	14	9	2	40	1,109
		88%	6%	1%	1%	0%	4%	100%
	公立	699	53	13	7	1	8	781
		90%	7%	1%	1%	0%	1%	100%
	私立	280	12	1	2	1	32	328
		85%	4%	0%	1%	0%	10%	100%

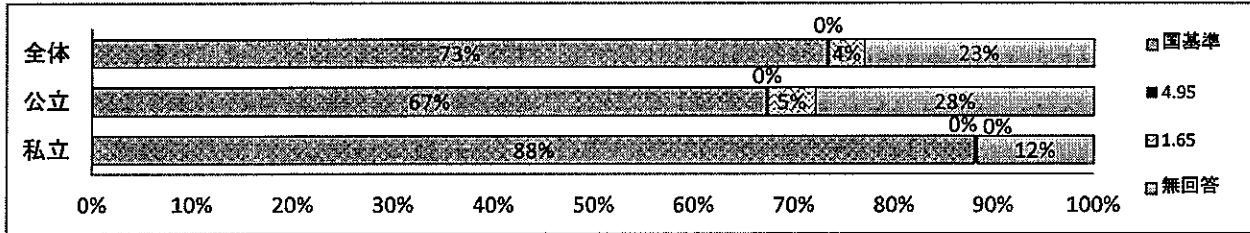


保育士配置基準		国基準	28:1	25:1	20:1	無回答	全体
5歳児	全体	1,052	14	1	2	40	1,109
		95%	1%	0%	0%	4%	100%
	公立	759	13	0	1	8	781
		97%	2%	0%	0%	1%	100%
	私立	293	1	1	1	32	328
		90%	0%	0%	0%	10%	100%

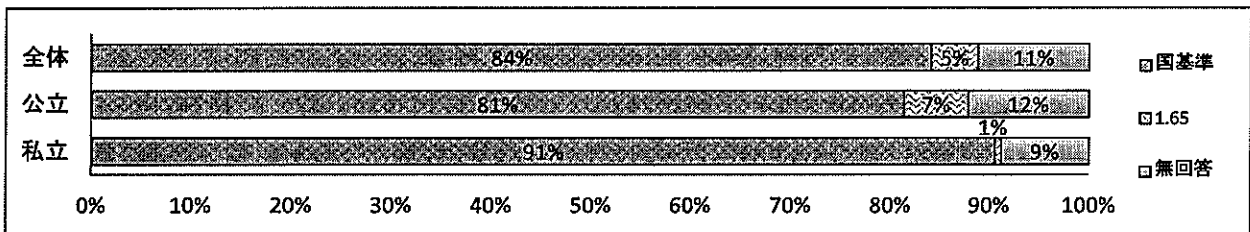


5. 市町村面積基準

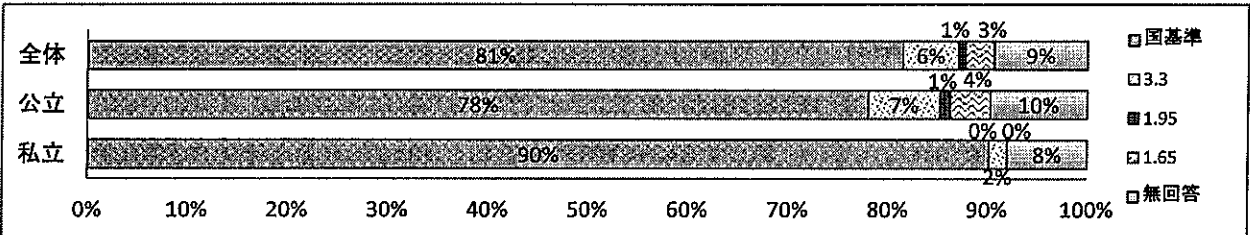
面積基準		国基準	4.95	1.65	無回答	全体
0歳児	全体	812	2	39	256	1,109
		73%	0%	4%	23%	100%
	公立	525	1	37	218	781
		67%	0%	5%	28%	100%
	私立	287	1	2	38	328
		88%	0%	0%	12%	100%



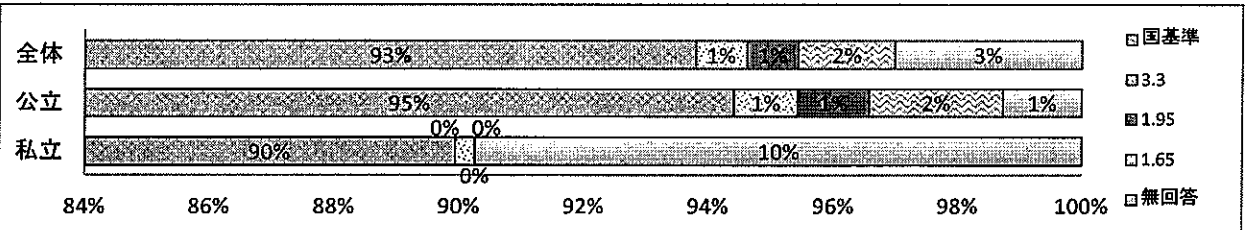
面積基準		国基準	1.65	無回答	全体
1歳児	全体	932	53	124	1,109
		84%	5%	11%	100%
	公立	635	51	95	781
		81%	7%	12%	100%
	私立	297	2	29	328
		91%	1%	9%	100%



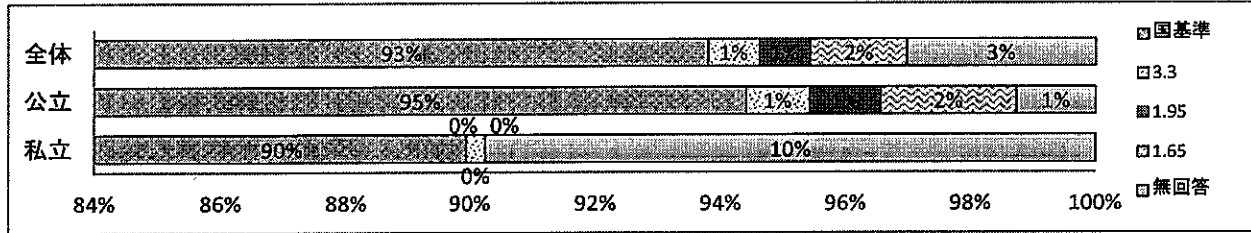
面積基準		国基準	3.3	1.95	1.65	無回答	全体
2歳児	全体	903	62	8	32	104	1,109
		81%	6%	1%	3%	9%	100%
	公立	609	56	8	32	76	781
		78%	7%	1%	4%	10%	100%
	私立	294	6	0	0	28	328
		90%	2%	0%	0%	8%	100%



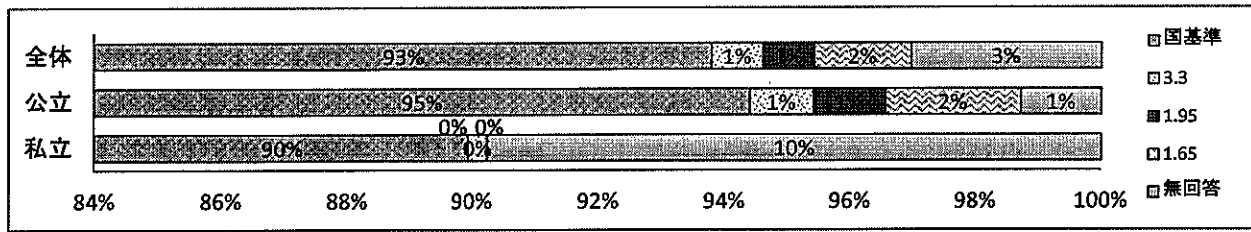
面積基準		国基準	3.3	1.95	1.65	無回答	全体
3歳児	全体	1,032	9	9	17	42	1,109
		93%	1%	1%	2%	3%	100%
	公立	737	8	9	17	10	781
		95%	1%	1%	2%	1%	100%
	私立	295	1	0	0	32	328
		90%	0%	0%	0%	10%	100%



面積基準		国基準	3.3	1.95	1.65	無回答	全体
4歳児	全体	1,032	9	9	17	42	1,109
		93%	1%	1%	2%	3%	100%
	公立	737	8	9	17	10	781
		95%	1%	1%	2%	1%	100%
	私立	295	1	0	0	32	328
		90%	0%	0%	0%	10%	100%



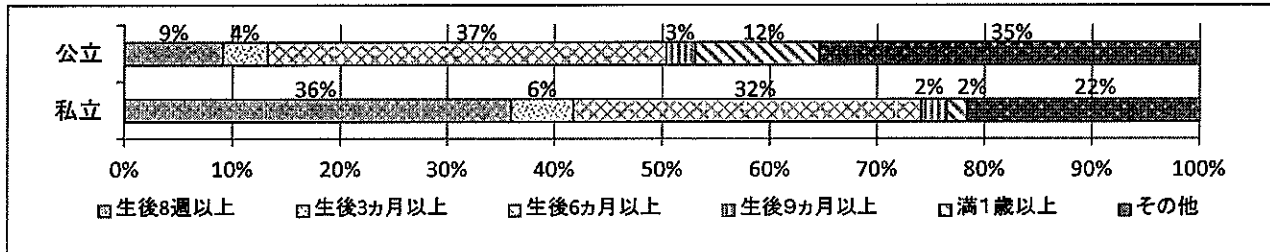
面積基準		国基準	3.3	1.95	1.65	無回答	全体
5歳児	全体	1,032	9	9	17	42	1,109
		93%	1%	1%	2%	3%	100%
	公立	737	8	9	17	10	781
		95%	1%	1%	2%	1%	100%
	私立	295	1	0	0	32	328
		90%	0%	0%	0%	10%	100%



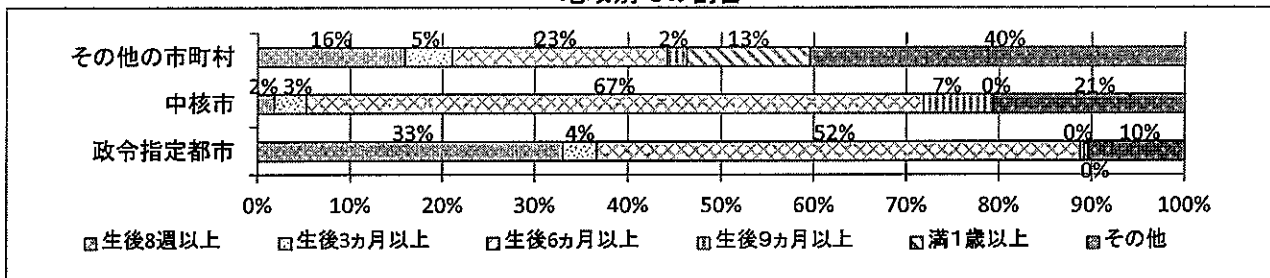
6. 受入年齢

	生後8週以上	生後3か月以上	生後6か月以上	生後9か月以上	満1歳以上	その他	
全体	189	51	396	29	96	348	1,109
	17%	5%	36%	3%	9%	31%	100%
公立	71	32	290	21	90	277	781
	9%	4%	37%	3%	12%	35%	100%
私立	118	19	106	8	6	71	328
	36%	6%	32%	2%	2%	22%	100%

公立と私立での割合



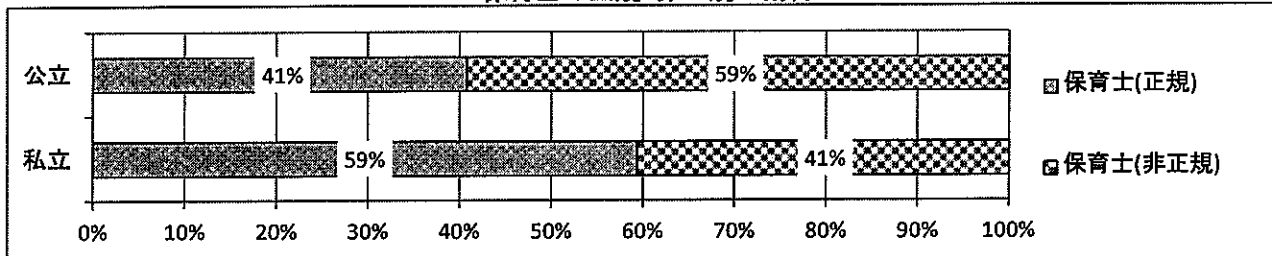
地域別での割合



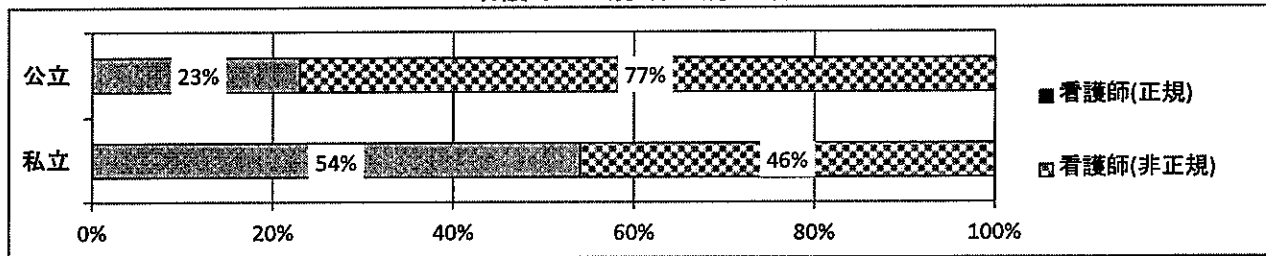
問2. 職員の状況について

	全体		公立		私立		
施設長	1,093	4%	793	4%	300	4%	
主任保育士	1,260	5%	928	5%	332	4%	
保育士	正 規	8,781	33%	5,239	28%	3,542	44%
	非正規	10,038	37%	7,609	41%	2,429	30%
看護師	正 規	85	0%	31	0%	54	1%
	非正規	150	1%	104	1%	46	1%
調理員	正 規	1,261	5%	748	4%	513	6%
	非正規	1,546	6%	1,212	6%	334	4%
その他	正 規	163	1%	72	0%	91	1%
	非正規	2,404	8%	1,927	11%	477	5%
合 計	26,815	100%	18,697	100%	8,118	100%	

保育士の正規・非正規の割合



看護師の正規・非正規の割合

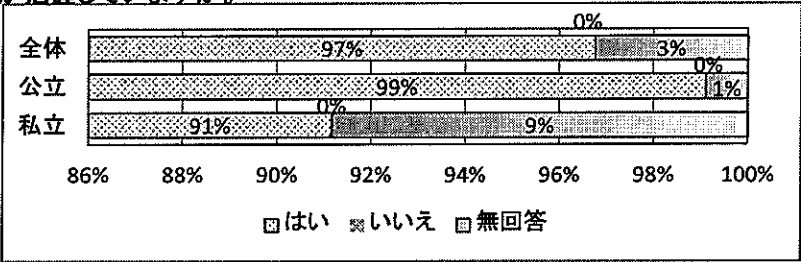


問3 日々の保育の中での危機管理について

(1) 子どもが持つリスクに対して

1. 子どもの心身の特性や既往症を保育者が把握していますか。

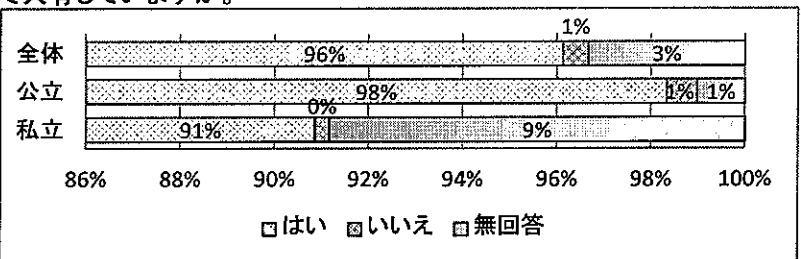
	全体	公立	私立
はい	1,073	774	299
	97%	99%	91%
いいえ	0	0	0
	0%	0%	0%
無回答	36	7	29
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



子ども一人一人の心身の特性等を把握することは、事故を未然に防ぐためには必須と考えている。自由記述の中にも「子ども一人一人の性格や特性(健康面・行動面)を把握しておき、子どもの行動予測に努める」ことが事故防止のためには大切であるとの記述が多くあった。

2. 子どもの心身の特性や既往症保育者間で共有していますか。

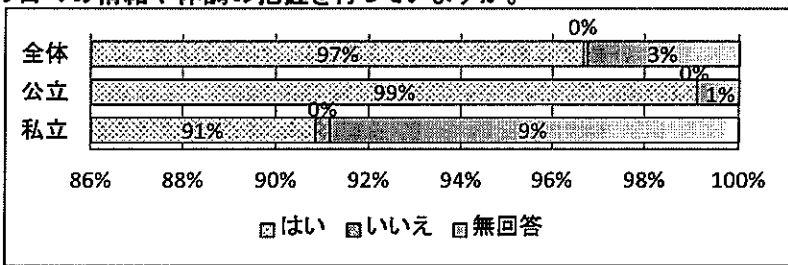
	全体	公立	私立
はい	1,066	768	298
	96%	98%	91%
いいえ	6	5	1
	1%	1%	0%
無回答	37	8	29
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



保育者間で子どもの心身の特性等を共有することは重要なこととして捉えている。自由記述の中にも「子ども一人一人の発達や行動を全員が把握できるように子どもについて園全体でよく話し合う。」等、職員間で一人一人の子どものことを共通理解することが、未然に事故を防ぐことにとって不可欠であるという記述が多くあった。

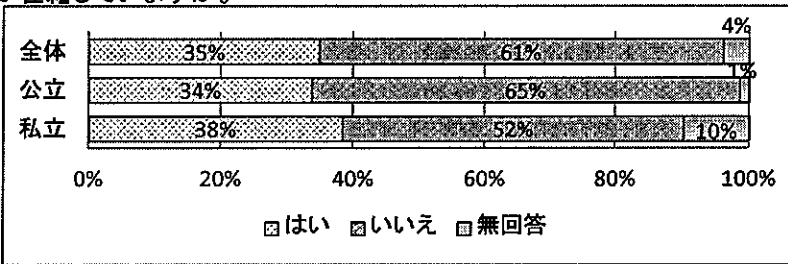
3. 登園時の保護者連絡や視診で、子どもの日々の情緒や体調の把握を行っていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,072 97%	774 99%	298 91%
いいえ	1 0%	0 0%	1 0%
無回答	36 3%	7 1%	29 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



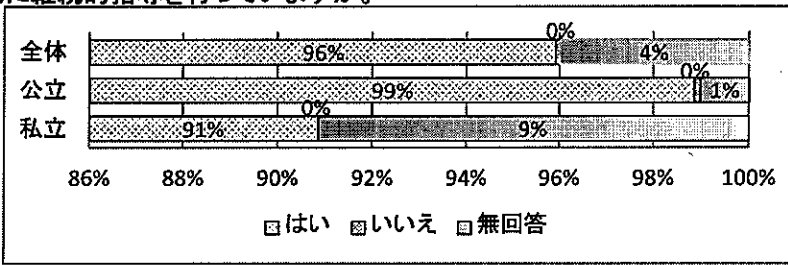
4. アナフィラキシーの危険性のある子どもが在籍していますか。

	全体	公立	私立
はい	387 35%	261 34%	126 38%
いいえ	679 61%	509 65%	170 52%
無回答	43 4%	11 1%	32 10%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



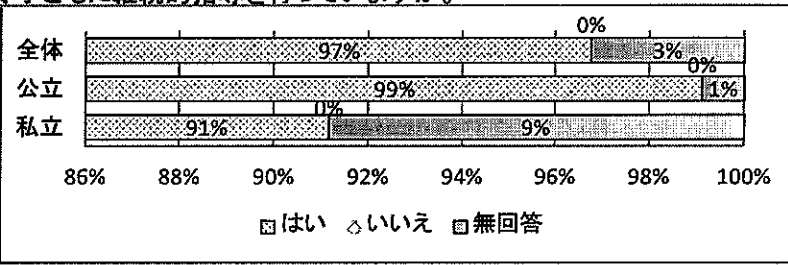
5. 給食やおやつを食べ方について、子どもに継続的指導を行っていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,070 96%	772 99%	298 91%
いいえ	1 0%	1 0%	0 0%
無回答	38 4%	8 1%	30 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



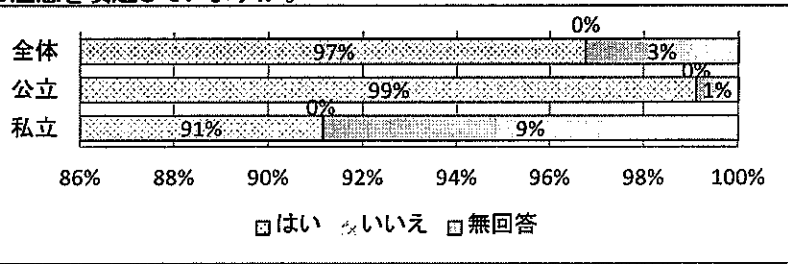
6. 遊具、園庭、プールでの遊び方について、子どもに継続的指導を行っていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,073 97%	774 99%	299 91%
いいえ	0 0%	0 0%	0 0%
無回答	36 3%	7 1%	29 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



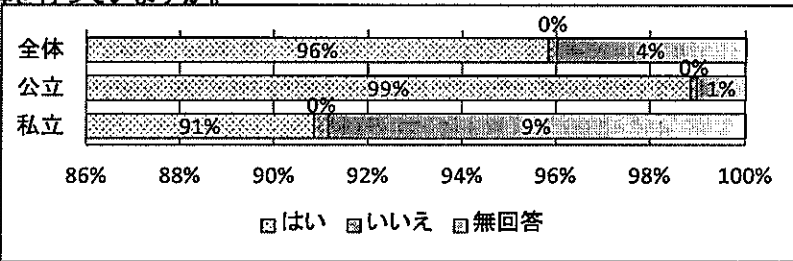
7. 危険につながる行動については園全体で注意を喚起していますか。

	全体	公立	私立
はい	1,073 97%	774 99%	299 91%
いいえ	0 0%	0 0%	0 0%
無回答	36 3%	7 1%	29 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



8. 危険を回避するための安全に関する指導を行っていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,070	772	298
	96%	99%	91%
いいえ	2	1	1
	0%	0%	0%
無回答	37	8	29
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



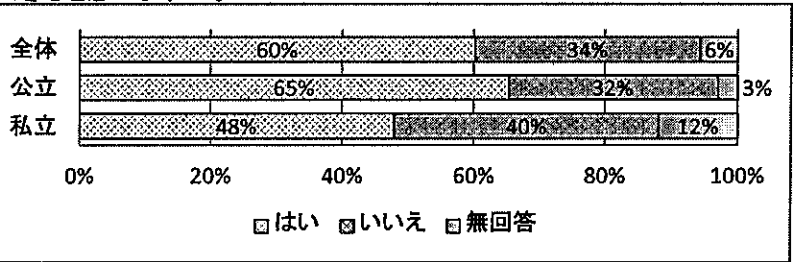
日頃子どもへの安全教育は、事故を未然に防ぐために大切なこととして捉えている。

自由記述では「日頃から体を十分に動かすことを行うなかから危険に対し、自分で身を守るための能力が高まっていくよう働きかける」等、子ども達に自分の身を守るための機敏に動けるしなやかな体づくりやルールを知らせていく等の安全教育の大切さについて、多く記述されていた。

(2) 保育所や保育者の持つリスクについて

9. 現在の保育士配置基準で安全な保育ができると思いますか。

	全体	公立	私立
はい	667	510	157
	60%	65%	48%
いいえ	380	248	132
	34%	32%	40%
無回答	62	23	39
	6%	3%	12%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



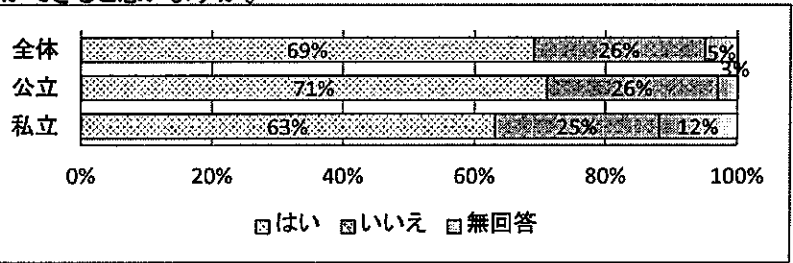
在籍園児数別	はい	いいえ	無回答	全体
0人	2	3	1	6
	33%	50%	17%	100%
100人以下	303	146	13	462
	66%	32%	2%	99%
100～150人以下	222	141	7	370
	60%	39%	1%	100%
150～200人以下	100	54	4	158
	63%	34%	3%	100%
200人以上	42	37	2	81
	52%	46%	2%	100%

この設問の集計結果を在籍園児数別でみると、在籍100人以下の保育所規模では現在の保育士配置基準では安全な保育ができないとの回答が449園中146園で32%、在籍200人以上では79園中37園で46%と保育所規模が大きくなるにつれて安全な保育をするには問題があると考えられる保育所の割合が高くなっている。

自由記述のなかにも「職員配置の引き上げや保育士の労働条件の改善等、心身共に余裕のある保育が安全な保育につながる」との記述がみられる。

10. 現在の保育室の面積基準で安全な保育ができると思いますか。

	全体	公立	私立
はい	759	552	207
	69%	71%	63%
いいえ	290	208	82
	26%	26%	25%
無回答	60	21	39
	5%	3%	12%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%

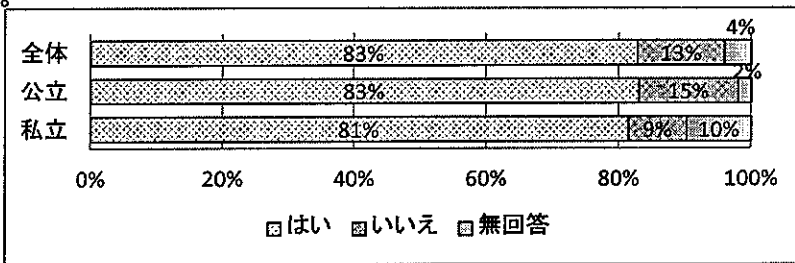


在籍園児数別	はい	いいえ	無回答	全体
0人	2	3	1	6
	33%	50%	17%	100%
100人以下	340	113	9	462
	74%	24%	2%	100%
100～150人以下	251	111	8	370
	68%	30%	2%	100%
150～200人以下	119	35	4	158
	75%	22%	3%	100%
200人以上	50	28	3	81
	62%	34%	4%	99%

この設問の集計結果を在籍園児数別でみると、現在の面積基準については、在籍100人以下の保育所規模では453園中113園で24%、在籍200人以上の規模では78園中28園34%と保育所規模が大きくなるにつれて問題があると考えられる保育所の割合が高くなっており、面積基準は保育所の規模と相関関係があることが推測される。

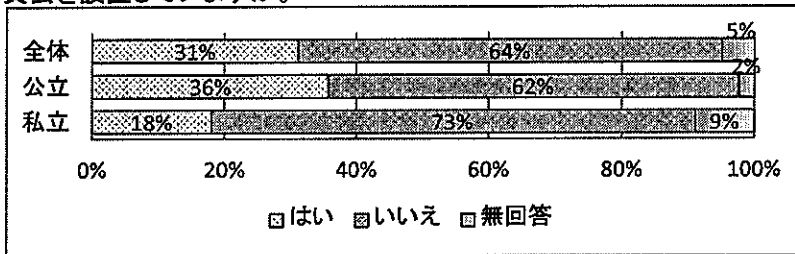
11. 嘱託医との連携は十分できていますか。

	全体	公立	私立
はい	918	651	267
	83%	83%	81%
いいえ	146	117	29
	13%	15%	9%
無回答	45	13	32
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



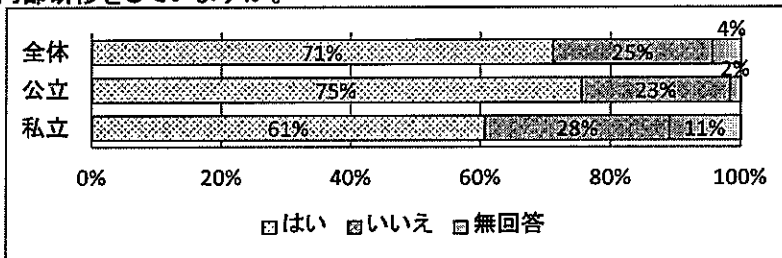
12. リスクマネジメント委員会や安全管理委員会を設置していますか。

	全体	公立	私立
はい	345	279	66
	31%	36%	18%
いいえ	710	483	277
	64%	62%	73%
無回答	54	19	35
	5%	2%	9%
合計	1,109	781	378
	100%	100%	100%



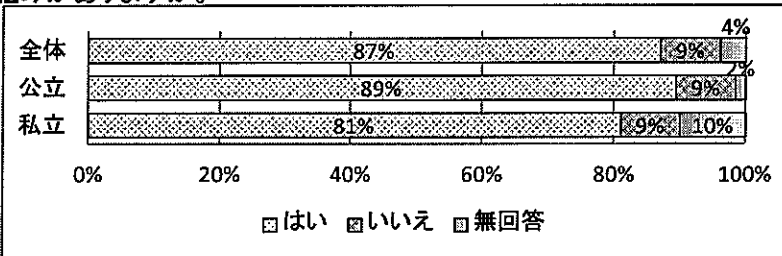
13. リスクマネジメントや安全管理に関する内部研修をしていますか。

	全体	公立	私立
はい	788	589	199
	71%	75%	61%
いいえ	272	179	93
	25%	23%	28%
無回答	49	13	36
	4%	2%	11%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



14. 日常のヒヤリ・ハットの経験を生かす仕組みがありますか。

	全体	公立	私立
はい	965	698	267
	87%	89%	81%
いいえ	101	71	30
	9%	9%	9%
無回答	43	12	31
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%

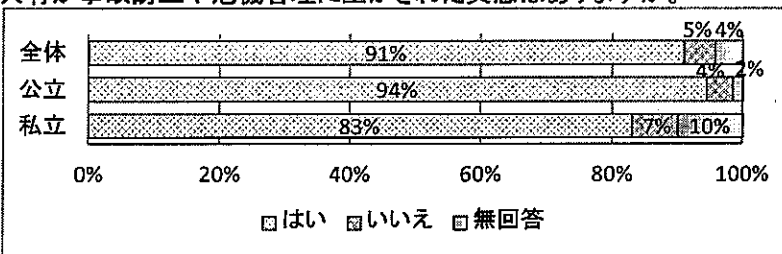


ヒヤリハット経験について職員全体でケースカンファレンスを行い、対策を考える仕組みの構築が、事故を未然に防ぐ大切なこととして認識されている。

自由記述においても「ヒヤリハットを活用し、「職員の危機意識を高める」「ヒヤリハット経験を職員全体で共通意識をもち、大きな事故に繋がらないようにする」「日々の保育の中でヒヤリハットに気づき、振り返り反省し、他の保育士と共有していくことを習慣にしていけることが、まさかの時に備えることだと思う」等の多くの記述があった。

15. 職員間の話し合いによる課題や手順の共有が事故防止や危機管理に生かされた実感はありますか。

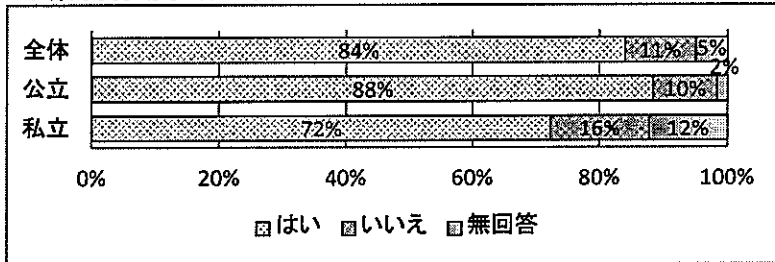
	全体	公立	私立
はい	1,009	738	271
	91%	94%	83%
いいえ	53	31	22
	5%	4%	7%
無回答	47	12	35
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



職員間の話し合いによる課題の周知や手順の共有・連携が危機管理には必須であるとの認識が高い。
自由記述においても「怪我や事故事例を職員間で出し合い、様々なイメージや防止策を共有する」や「日々、気付いたこと、怪我をしたとき等は必ず職員間で連絡し合い、改善策を話し合い、共有する事が大切だと思われる」「事故を想定内として、保育者の動線・位置・保育内容を職員間で共有し合うこと」等、多くの保育所が事故を未然に防ぐために大切なこととして記述していた。

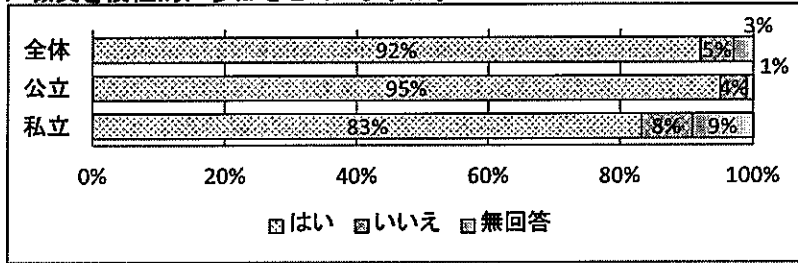
16. 事故を想定した職員の事故防止のための具体的行動手順は確認されていますか。

	全体	公立	私立
はい	928 84%	691 88%	237 72%
いいえ	128 11%	77 10%	51 16%
無回答	53 5%	13 2%	40 12%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



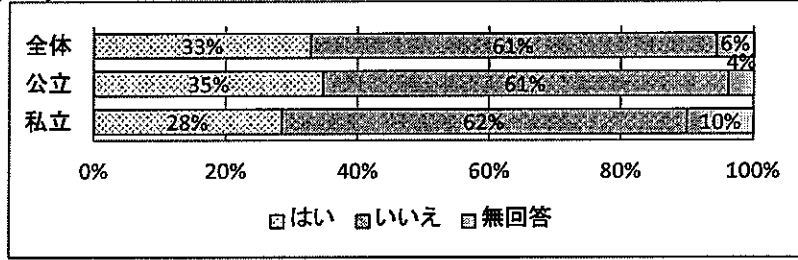
17. 事故防止や救急救命・応急手当の研修に職員を積極的に参加させていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,017 92%	744 95%	273 83%
いいえ	52 5%	27 4%	25 8%
無回答	40 3%	10 1%	30 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



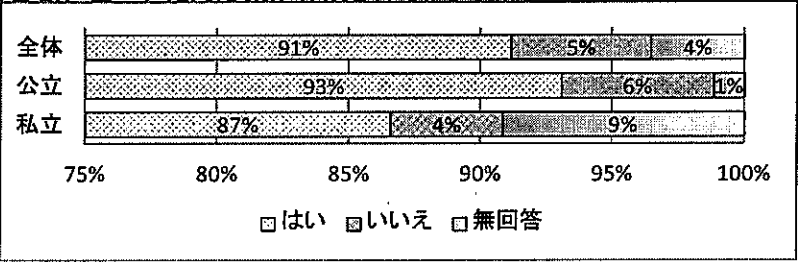
18. アレルギー対応委員会を設置していますか。

	全体	公立	私立
はい	364 33%	271 35%	93 28%
いいえ	682 61%	480 61%	202 62%
無回答	63 6%	30 4%	33 10%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



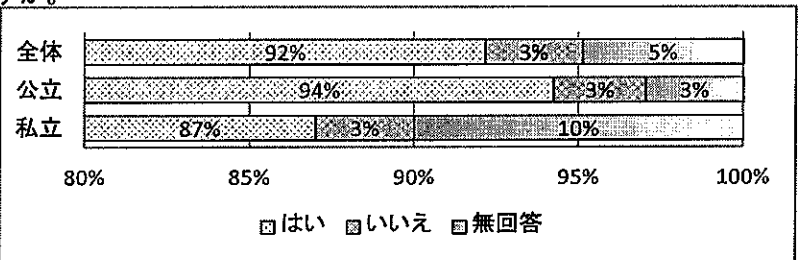
19. アレルギーを持つ子どもについて医師の診断に基づいた対応策が作成されていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,011 91%	727 93%	284 87%
いいえ	59 5%	45 6%	14 4%
無回答	39 4%	9 1%	30 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



20. その対応策が職員間で共有されていますか。

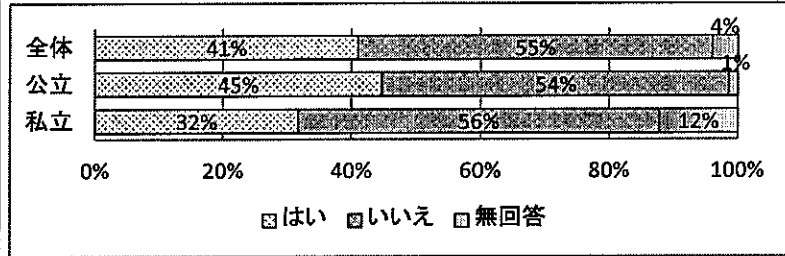
	全体	公立	私立
はい	1,022 92%	736 94%	286 87%
いいえ	33 3%	22 3%	11 3%
無回答	54 5%	23 3%	31 10%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



アレルギーを持つ子どもの対応策の職員間の共有は即、命に関することでもあり、認識の高さがうかがえる。自由記述においても「職員間でアレルギーを持つ子どもへの関わり方に一貫性を持つこと」「アレルギーの正しい知識を持つことの大切さと全職員が対応策のマニュアルを共有すること」等の記述が多かった。

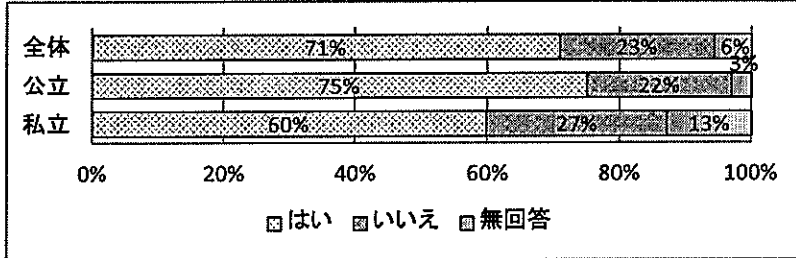
21. エピペンについての知識や使用方法について職員が共通理解していますか。

	全体	公立	私立
はい	453 41%	349 45%	104 32%
いいえ	605 55%	421 54%	184 56%
無回答	51 4%	11 1%	40 12%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



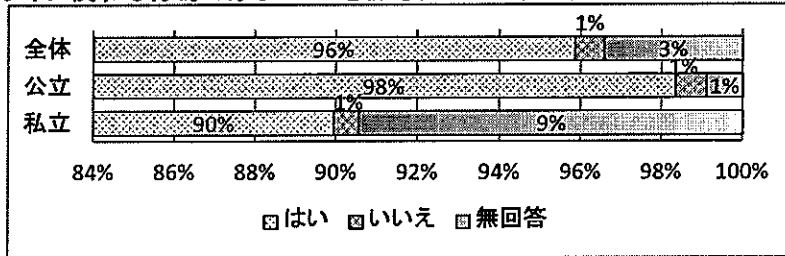
22. 誤食と誤嚥での対応の違いを理解していますか。

	全体	公立	私立
はい	786 71%	590 75%	196 60%
いいえ	260 23%	170 22%	90 27%
無回答	63 6%	21 3%	42 13%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



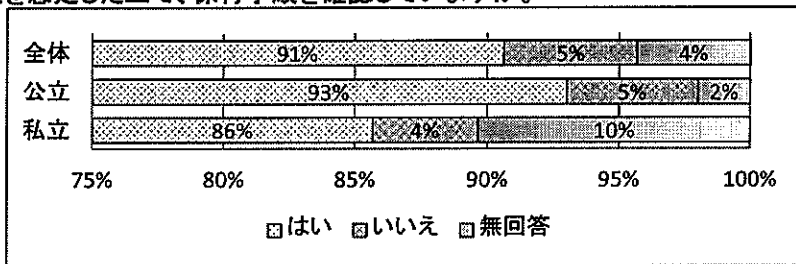
23. 給食やおやつでの飲食は、状況によっては命に関わる行為であることが意識されていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,063 96%	768 98%	295 90%
いいえ	8 1%	6 1%	2 1%
無回答	38 3%	7 1%	31 9%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



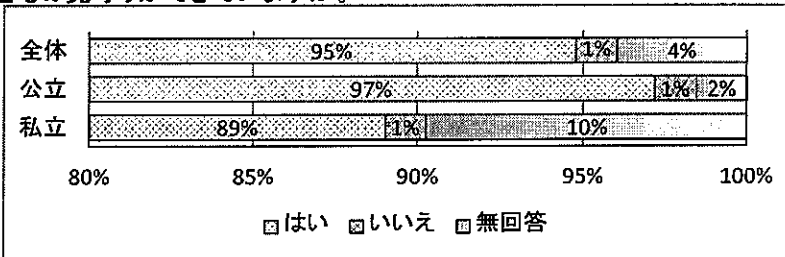
24. 飲食が時として命に関わる行為であることを想定した上で、保育手順を確認していますか。

	全体	公立	私立
はい	1,005 91%	724 93%	281 86%
いいえ	56 5%	43 5%	13 4%
無回答	48 4%	14 2%	34 10%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



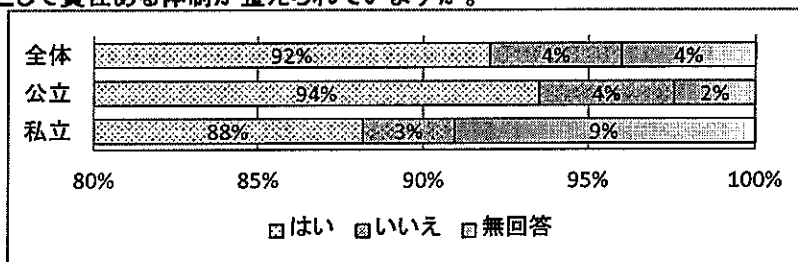
25. 手順に基づく飲食の提供と飲食中の子どもの見守りができていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,051 95%	759 97%	292 89%
いいえ	14 1%	10 1%	4 1%
無回答	44 4%	12 2%	32 10%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%



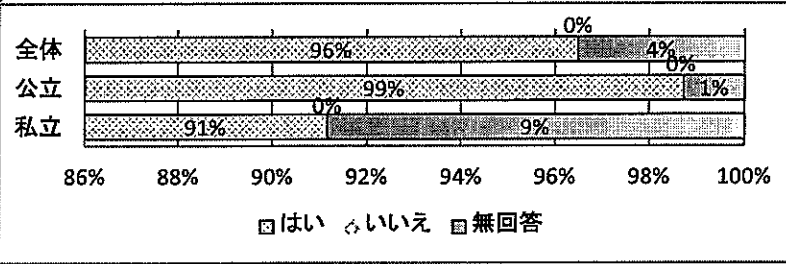
26. 給食やおやつ食材選びに関して、園として責任ある体制が整えられていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,017	730	287
	92%	94%	88%
いいえ	41	32	9
	4%	4%	3%
無回答	51	19	32
	4%	2%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



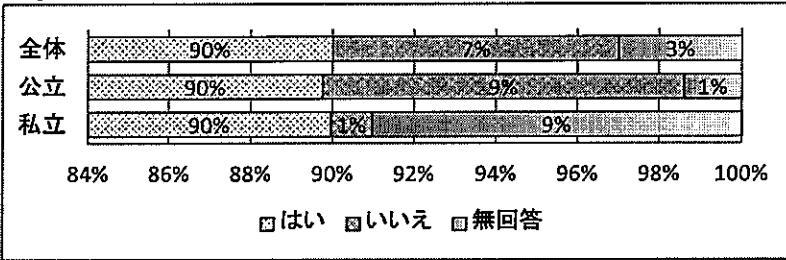
27. 睡眠時は常に見守りができていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,070	771	299
	96%	99%	91%
いいえ	0	0	0
	0%	0%	0%
無回答	39	10	29
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



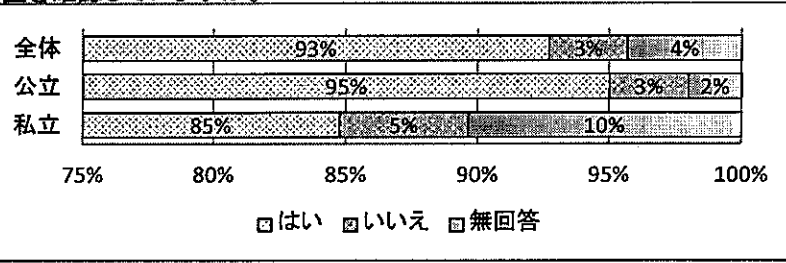
28. 睡眠時の記録票(チェック票)がありますか。

	全体	公立	私立
はい	995	701	294
	90%	90%	90%
いいえ	74	69	5
	7%	9%	1%
無回答	40	11	29
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



29. 子どもの状況把握のための保育者の位置を確認していますか。

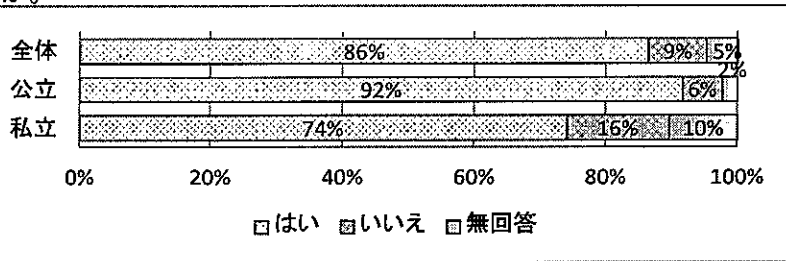
	全体	公立	私立
はい	1,024	746	278
	93%	95%	85%
いいえ	37	21	16
	3%	3%	5%
無回答	48	14	34
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



保育中の保育者の立ち位置の確認は重要であるという認識が読み取れる。
 自由記述では「日頃の動きの中でリスク面を考慮した意識を持って保育を進める必要がある」「事故の可能性を想定し、環境や立ち位置の確認を行えるように定期的に確認の場を作る必要がある」等、保育者の位置の確認の大切さが指摘されていた。

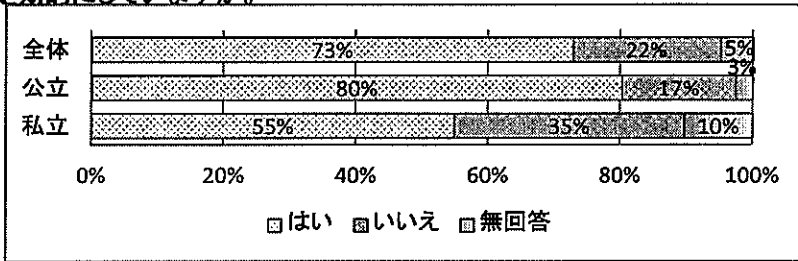
30. BLS(一時救命措置)の知識がありますか。

	全体	公立	私立
はい	959	716	243
	86%	92%	74%
いいえ	98	47	51
	9%	6%	16%
無回答	52	18	34
	5%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



31. BLS(一時救命措置)の訓練を職員に定期的に行っていますか。

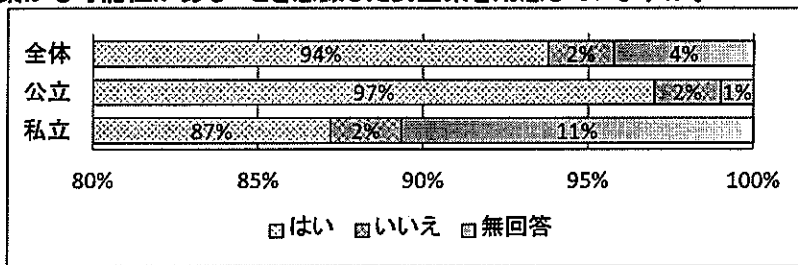
	全体	公立	私立
はい	808	627	181
	73%	80%	55%
いいえ	247	134	113
	22%	17%	35%
無回答	54	20	34
	5%	3%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



(3)施設の物的環境が持つリスクに対して

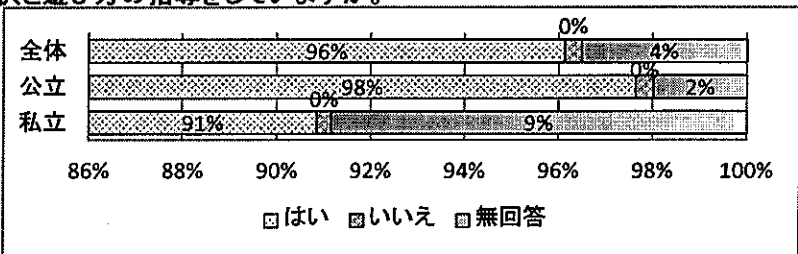
32. 遊具が状況によっては命に関する事故に繋がる可能性があることを意識した安全策を用意していますか。

	全体	公立	私立
はい	1,040	754	286
	94%	97%	87%
いいえ	22	15	7
	2%	2%	2%
無回答	47	12	35
	4%	1%	11%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



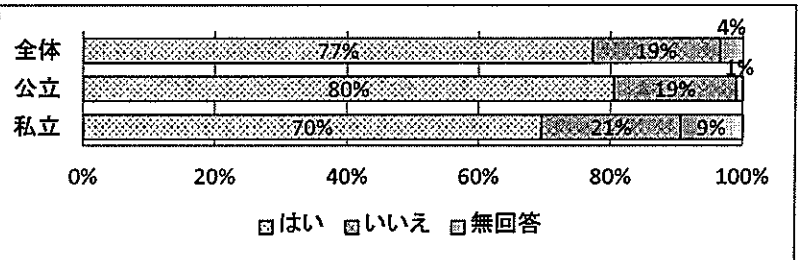
33. 子どもの発達に合った安全な遊具の選択と遊び方の指導をしていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,066	768	298
	96%	98%	91%
いいえ	4	3	1
	0%	0%	0%
無回答	39	10	29
	4%	2%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



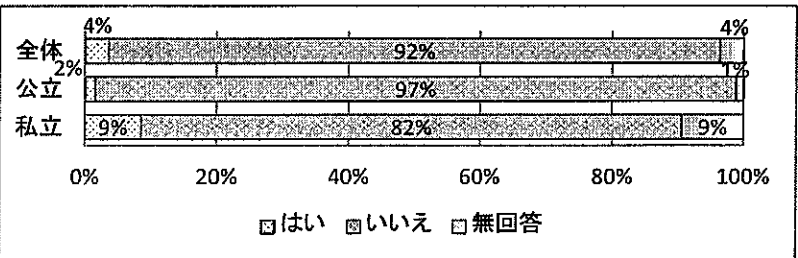
34. AEDを設置していますか。

	全体	公立	私立
はい	856	628	228
	77%	80%	70%
いいえ	214	145	69
	19%	19%	21%
無回答	39	8	31
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



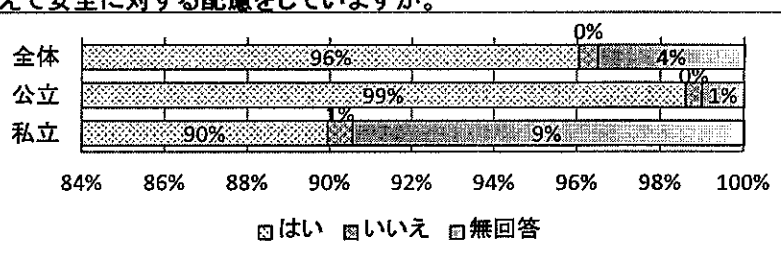
35. 酸素吸入器はありますか。

	全体	公立	私立
はい	40	12	28
	4%	2%	9%
いいえ	1,029	760	269
	92%	97%	82%
無回答	40	9	31
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



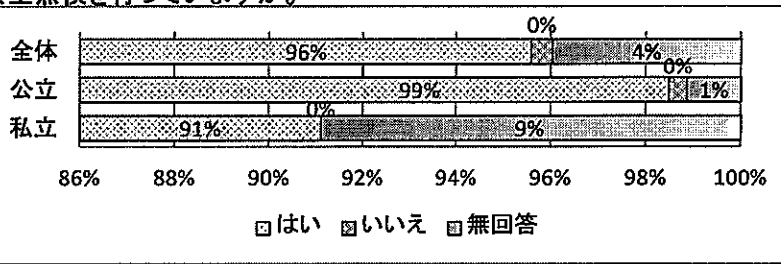
36. 園舎、園庭の特性を把握し、それをふまえて安全に対する配慮をしていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,065	770	295
	96%	99%	90%
いいえ	5	3	2
	0%	0%	1%
無回答	39	8	31
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



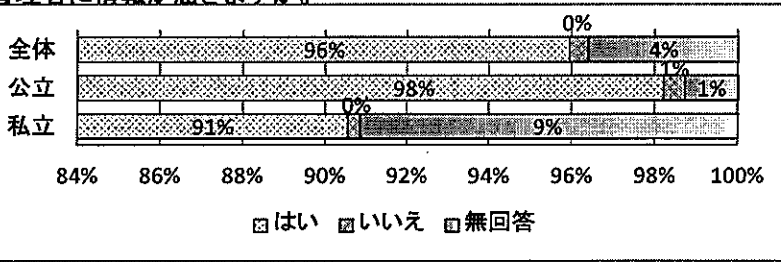
37. 園舎内外の施設、設備、遊具について安全点検を行っていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,066	769	297
	96%	99%	91%
いいえ	5	3	2
	0%	0%	0%
無回答	38	9	29
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



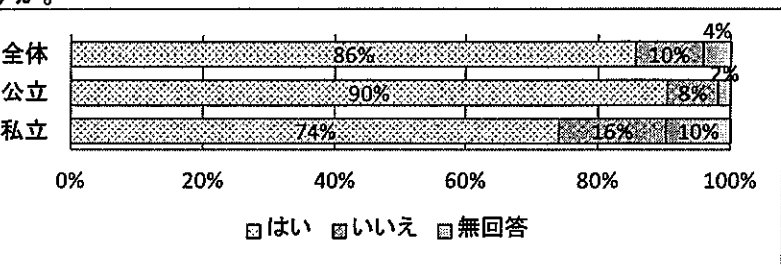
38. 職員が異常を発見した際には速やかに管理者に情報が届きますか。

	全体	公立	私立
はい	1,064	767	297
	96%	98%	91%
いいえ	5	4	1
	0%	1%	0%
無回答	40	10	30
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



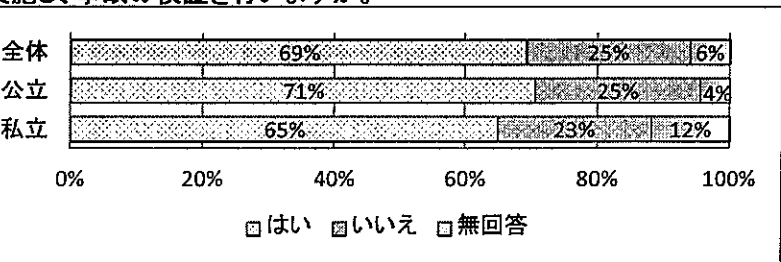
39. 園としての事故発生マニュアルがありますか。

	全体	公立	私立
はい	949	706	243
	86%	90%	74%
いいえ	113	60	53
	10%	8%	16%
無回答	47	15	32
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



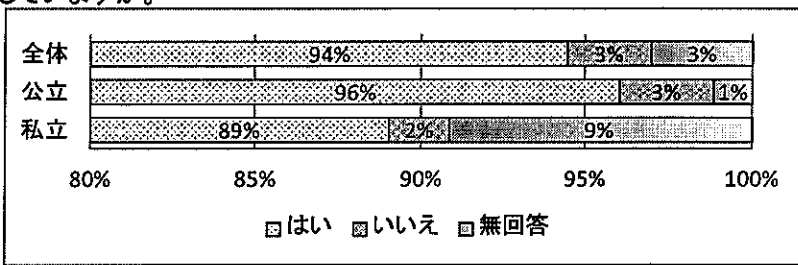
40. 医療機関受診事故に際して検討会等を実施し、事故の検証を行いますか。

	全体	公立	私立
はい	763	550	213
	69%	71%	65%
いいえ	272	196	76
	25%	25%	23%
無回答	74	35	39
	6%	4%	12%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



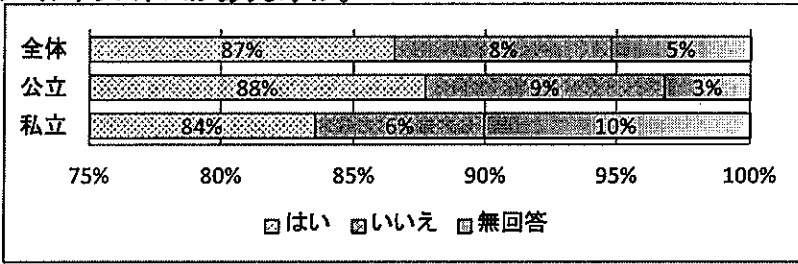
41. 事故記録簿を速やかに作成するようにしていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,042	750	292
	94%	96%	89%
いいえ	28	22	6
	3%	3%	2%
無回答	39	9	30
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



42. 職員間で事故事例を共有できるようなルールやシステムがありますか。

	全体	公立	私立
はい	957	685	274
	87%	88%	84%
いいえ	92	71	21
	8%	9%	6%
無回答	58	25	33
	5%	3%	10%
合計	1,107	781	328
	100%	100%	100%

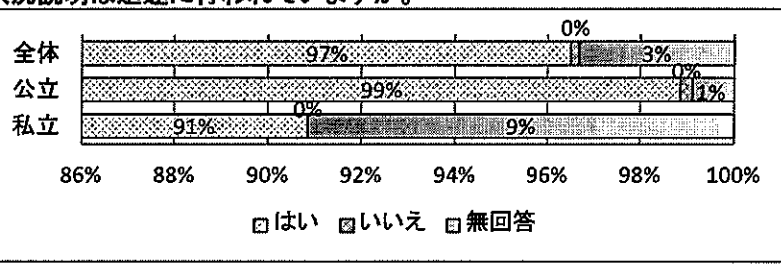


在籍園児数別	はい	いいえ	無回答	全体
0人	5	0	1	6
	83%	0%	17%	100%
100人以下	406	45	11	462
	88%	10%	2%	100%
100～150人以下	328	36	6	370
	89%	10%	1%	100%
150～200人以下	146	9	3	158
	92%	6%	2%	100%
200人以上	75	4	2	81
	93%	5%	2%	100%

この設問の集計結果を在籍園児数別でみると、100人以下の園で88%、100～150人の園で89%、150～200人の園で92%、200人以上の園で93%と、在籍園児数が多い保育所ほど「はい」と回答する割合が高くなっている。保育所の規模が大きくなると職員間の情報交換や連携をとるには、ルールやシステムの確立がなければやれないという現状が伺える。

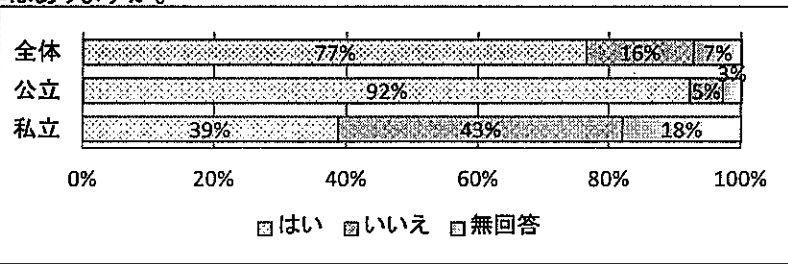
43. 事故の際に保護者への連絡や怪我の状況説明は迅速に行われていますか。

	全体	公立	私立
はい	1,070	772	298
	97%	99%	91%
いいえ	2	2	0
	0%	0%	0%
無回答	37	7	30
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



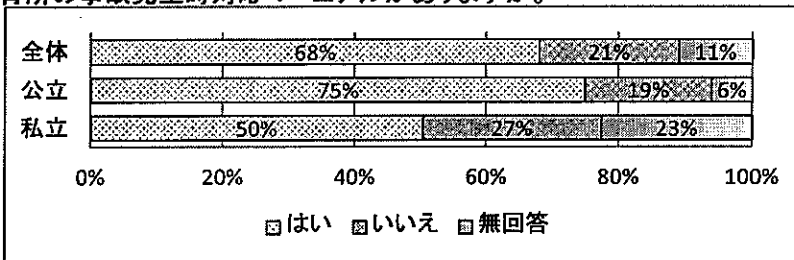
44. 事故の際に市町村所管課への報告基準はありますか。

	全体	公立	私立
はい	847	720	127
	77%	92%	39%
いいえ	181	39	142
	16%	5%	43%
無回答	81	22	59
	7%	3%	18%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



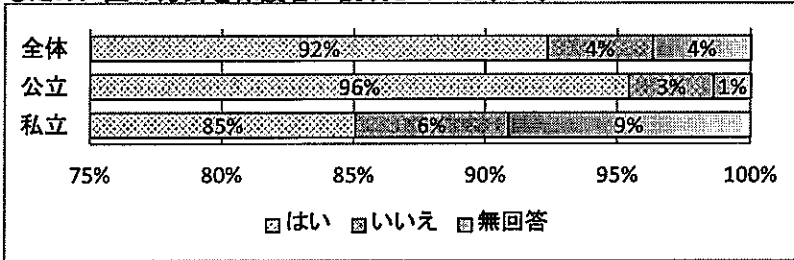
45. 園の所在する市町村は自治体として保育所の事故発生時対応マニュアルがありますか。

	全体	公立	私立
はい	754	589	165
	68%	75%	50%
いいえ	233	144	89
	21%	19%	27%
無回答	122	48	74
	11%	6%	23%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



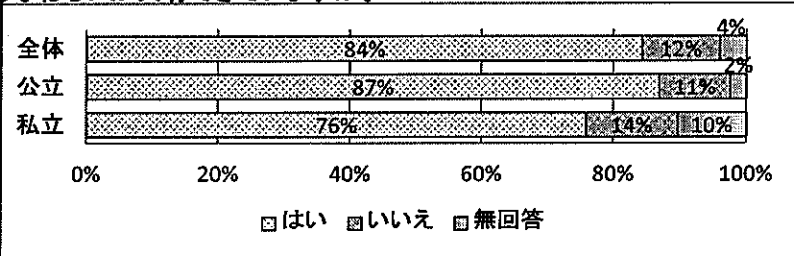
46. 保育中の事故や怪我について理解を得るために園の方針を保護者に説明していますか。

	全体	公立	私立
はい	1,024	745	279
	92%	96%	85%
いいえ	44	25	19
	4%	3%	6%
無回答	41	11	30
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



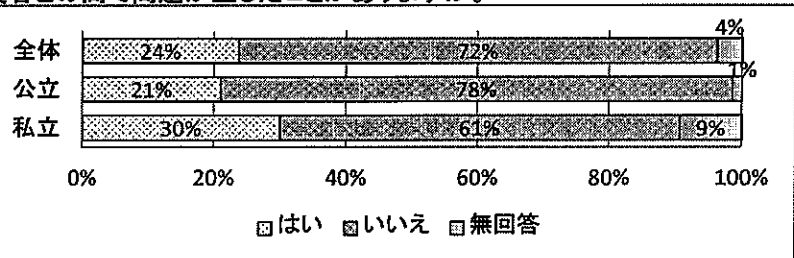
47. 子どもの望ましい発達には、安全策一辺倒ではなく「他人とぶつかりあうこと」や「次の発達を促すための活動(遊具)」などの経験が必要というようなねらいが共有できていますか。

	全体	公立	私立
はい	928	679	249
	84%	87%	76%
いいえ	128	83	45
	12%	11%	14%
無回答	53	19	34
	4%	2%	10%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



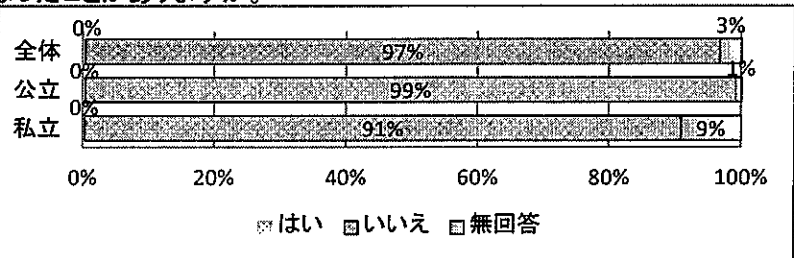
48. 子どもが事故や怪我をした場合に、保護者との間で問題が生じたことがありますか。

	全体	公立	私立
はい	263	164	99
	24%	21%	30%
いいえ	804	606	198
	72%	78%	61%
無回答	42	11	31
	4%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



49. 園における事故や怪我に関して裁判になったことがありますか。

	全体	公立	私立
はい	4	3	1
	0%	0%	0%
いいえ	1,068	771	297
	97%	99%	91%
無回答	37	7	30
	3%	1%	9%
合計	1,109	781	328
	100%	100%	100%



50. 子どもが事故や怪我をした場合に、園として相談できる医師、弁護士など第三者機関は整備されていますか。

	全体	公立	私立
はい	774 70%	551 71%	223 68%
いいえ	270 24%	202 26%	68 21%
無回答	65 6%	28 3%	37 11%
合計	1,109 100%	781 100%	328 100%

